

# 不景気と混乱の社会

1926(昭和元)年に大正天皇が亡くなり、時代は昭和へと移った。第一次世界大戦後、日本は不景気になり、さらに関東大震災も重なり、経済の落ちこみは続いた。そのため中国への軍事展開を進め、軍の力が強くなってきた。



## <銀行がつぶれる!!>

第一次世界大戦が終わると、日本では今まで海外で売っていた製品が売れなくなり一気に不景気になった。関東大震災のときに発行された「震災手形」も、金額が大きくなりすぎ、お金にかえることができなくなった。そのため手形をたくさんもっていた銀行が次々とつぶれることになった。またアメリカでは株が大暴落し、世界中に経済的な大混乱を引き起こす「世界恐慌」となり、日本もその影響を受けた。

うわー、大変だ!

預金を引き出すために東京貯蓄銀行にかけこむ人々。



### ●取りつけさわぎ

このときの若槻礼次郎内閣は、震災手形による混乱を解決しようとしていたが、1927(昭和2)年3月14日の議会で、片岡直温大蔵大臣がまだ営業している東京渡辺銀行が「つぶれた」と発言した。この発言がもととなり、人々が銀行から預金をおろそうとしておしよせた。これを「取りつけさわぎ」という。その後、多くの中小銀行がつぶれたり、休業したりした。

### ●中央区内の銀行

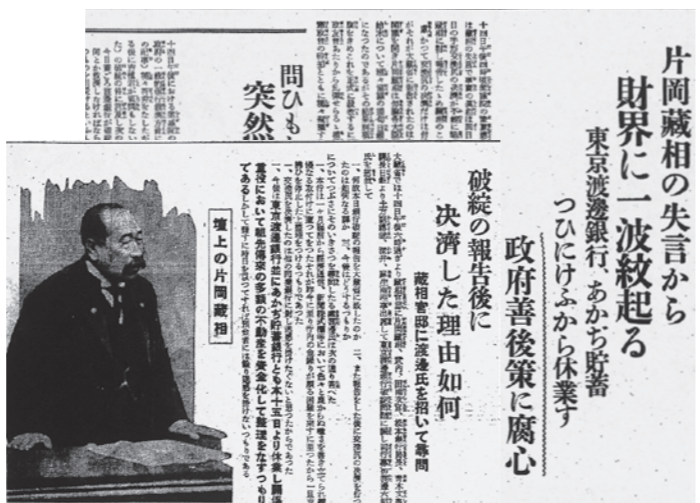
取りつけさわぎにより休業した銀行は45行となり、1926(昭和元)年に72行(普通銀行本店)あったのが、5年で35行になった。当時中央区内にあった、東京渡辺銀行(日本橋区本町一丁目)、十五井銀行(日本橋区金吹町)、村井銀行、川崎銀行(京橋区出雲町)などがつぶれた。



東京渡辺銀行休業を聞きつけ、たくさんの人々がおし寄せた。



日本橋区元四日市町にあった村井銀行も人々がさつこうした。



「東京日日新聞」1927(昭和2)年3月15日朝刊より。

### 急いでお金をつくれ! 運べ!

若槻内閣が総辞職したあとの田中義一内閣は、3週間の支払いの停止、延期をする「モラトリアム」をうちだし、2か月後にさわぎは収まった。銀行は、預金の払い出しにあてようと特別に日本銀行から貸し出しを受けお金を集めた。そのため日本銀行からお金がなくなり、急いでつくらなければならず、裏が印刷されていない200円札が発行された。



日本銀行の非常貸し出しの様子。どんどんお金が運ばれる。



裏が白い200円札

## 悲劇の舞台となった中央区

中小の銀行の休業があいつぐなか、合併がくり返され人々は大きな銀行に預金をするようになった。そのため三井、三菱、住友、安田、第一のもとと財閥だった銀行は、五大銀行として経済を支配するようになった。政治は立憲政友会、立憲民政党などの政党が中心に行っていた。人々の生活が苦しいなか、巨大な力をもった財閥や政治に抵抗しようとする運動家も現れた。

### ●三井銀行で殺人が!

団琢磨(唐)と三井銀行本店(現・日本橋室町二丁目1番1号)。



1932(昭和7)年3月5日、三井財閥理事長の団琢磨は、日本橋の三井本館前で血盟団という組織の青年に殺された。理由は「政党は天皇を助けて政治を行うことが役目なのに、日本を困難におとし入れた。その政党に金を出す財閥こそつぶすべき」というものだった。

## 苦しい人々の生活

世界経済の大混乱で、社会は不安定になった。それを反映して人々の生活も苦しいままだった。働き口を失い収入は少なくなる一方で、物価は高くなり、生活はますます苦しくなり、不満が高まっていた。

### ●不況に苦しむ人々



失業者で満員の無料宿泊所。

### ●東北のききん



農民の生活も苦しかった。1931(昭和6)年に東北では天候不順により農作物の不作が続き、大ききんとなった。農村を出て都会へきても働き口はなく、戻る家もなくなってしまった。

農家の娘は都会に売り出されるという悲しいできごとが多数あり、社会問題にもなった。

## 首相が殺された! 五・一五事件



犬養首相殺害の新聞記事「東京朝日新聞」1932(昭和7)年5月16日朝刊より。

このときの日本は、中国への軍事行動に力を入れていた。当時の犬養毅首相はこの事態に慎重な態度をとっていたため、1932(昭和7)年5月15日、海軍の青年将校たちに殺されてしまった。これを五・一五事件という。この事件をきっかけに政党の力は弱まった。

みんな日本のためを思っているのね...



### ●働き口がない

大学や専門学校への進学率は高くなったが、就職率は、中等実業学校75%、専門学校72%、大学55.8%と上級学校へいくほど低くなった(昭和3年当時)。

「大学は出たけれど」という就職先がない青年の映画があっただって。



## 軍の影響力と中国侵略



日露戦争勝利後、ロシアとの条約で日本は中国にあった満州鉄道などを手に入れたが、人々の生活は苦しいままだった。領土を広げれば豊かになるという考えがあり、1931(昭和6)年9月18日、日本軍は満州鉄道をわざと爆破し、中国軍のせいにしてこうげきをはじめた。これを「満州事変」という。翌年の3月1日に「満州国」をつくり、思いのままに中国大陸を支配しようとした。